

# かわごえ都市景観表彰

AWARD FOR KAWAGOE LANDSCAPE DESIGN

## かわごえ都市景観表彰制度の一部変更

第1回かわごえ都市景観表彰が平成2年に開催されてから、皆様のご愛顧・ご協力を持ちまして、30年を超えて事業を継続することができ、良好な都市景観の形成に寄与できているものと感じております。

一方で、時代の流れや皆様の都市景観に対する意識の醸成に伴い、表彰の候補作品については、企画当初に想定されていた範疇を超えたものについても、推薦されるケースが見られるようになりました。

これを受けまして、今回の第16回かわごえ都市景観表彰から、表彰の対象を建築行為等に限定せず、看板や植栽、都市景観を守るための行為・活動等についても表彰対象となるよう基準を拡大しました。

これによって、再生された建築物や建築物の新たな活用方法の提案、教育機関の活動や先進的なアイデアによって製作された工作物、優れた都市景観を形成している建築物の保存やその魅力を発信する行為等も対象となります。

今後は、より幅広い活動が促進され、持続可能なまちづくりが図られることや未来に向けた良好な都市景観の維持・底上げを目指してまいります。

## 賞の名称変更

従来まで「都市景観デザイン賞」「都市景観ポイント賞」として、2つの観点から表彰を行っておりましたが、今回から、上述の変更の実施に合わせ、「都市景観賞」に統一しました。

## 対象事例

- (1) 伝統的な町並み景観の保全・調和を図ったもの若しくは文化遺産等を保存し、又は積極的に取り入れ活用しているもの
- (2) 河川、公園などの自然や景観要素と調和し、また、緑化への努力がされ、やすらぎとうるおいの空間を提供しているもの
- (3) 将来のまちの景観をリードしていくような積極的提案が盛り込まれたもの
- (4) 住民の創意工夫又は活動によって、整備、管理又は利用状況が、周辺の環境や都市景観又は市民の利用上効果的なもの
- (5) 建築物と一体的にデザインされ、まち並みに配慮されたもの
- (6) その地域の文化性を高め、周辺の景観上優れたアクセントとなるもの
- (7) 道路に面する部分などの工夫により与するもの

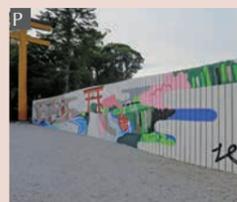
令和3年度(第16回)の候補作品の募集は以下のとおり実施しました。

募集期間：令和3年8月2日(月)～9月24日(金)

推薦資格：どなたでも(自薦他薦は問いません)

推薦方法：都市景観課及び市ホームページで配布している応募用紙に必要事項を記入し、都市景観課へ持参・郵送。または市ホームページの応募フォームから。

## 受賞作品の良きライバルとして



A 立門前第一ビル

B ヤオコーサポートセンター(本社)

C 立教大学×武蔵野銀行まち歩きマップ作成事業

D 山屋土蔵附属屋

E Hauskaaかすみ野

F 氷川神社衣装美容棟

G 高階すまいる保育園

H 特別養護老人ホーム清風園川越

I 百足屋

J 金大幸町店舗

K 氷川神社婚礼御用部

L ソライエアイル新河岸

M OKATTE

N カシーラ新富町

O どんぐりの森保育園

P 氷川会館仮囲い

Q Y氏邸前庭・彫刻

R 麺匠清兵衛下赤坂店

主催：川越市

問い合わせ先：川越市都市計画部都市景観課／TEL:049-224-5961(直通)

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

川越市市制施行100周年記念事業

# かわごえ都市景観表彰

AWARD FOR KAWAGOE LANDSCAPE DESIGN

暮らしのまわりの素敵な景観

人は居心地のよい都市を意識し求めるもの  
まちの情緒や個性が印象的に映るとき……  
まちの気配に文化を感じるとき……  
わたしたちの感性を満たしてくれる  
そんなすてきな景観を求めていきたい

川越市  
令和3年度



# かわごえ都市景観表彰

AWARD FOR KAWAGOE LANDSCAPE DESIGN



## 都市景観賞

良好な都市景観の形成に寄与し、地域の個性及び特色の伸長に資すると認められるものに与えます。

※表彰作品の名称については、受賞者の意向を踏まえ変更されることがあります。

### ひかわじんじやなおらいでん じんしゃ ひろぼ 氷川神社直会殿と神社広場

宮下町1丁目11-17

#### 鎮守の柱に憩う



川越十カ町の総鎮守氷川神社の駐車場として長年利用されていた敷地が、市民や参拝者のための憩いの空間に生まれ変わりました。少人数の結婚式など、祝いの会食のための施設として新築された建物は、現代的な素材を取り入れた軽やかなデザインでありながら、氷川神社の歴史の重みを受け継ぎ、凛とした印象を放っています。隣接する広場は、広場を開くように樹木がリズムよく配置され、交通量の多い道路に面していることを感じさせません。バックヤードの目隠しからトイレ棟の外装に至るまで木材が用いられており、細部まで手を抜かない演出が光ります。

建築主:氷川神社  
設計:共和木材建築設計室  
施工:岩堀建設工業株式会社

### きたまち べんてんながや 喜多町弁天長屋

喜多町2-1

#### 思い出の横丁を受け継ぐ



細い路地に古い長屋が軒を連ねる独特な雰囲気を残す「弁天横丁(通称)」。その一角に位置する喜多町弁天長屋が、川越ファンの取り組みにより、アートやものづくりを志す若者たちを迎え入れ、新しい文化エリアとして再生されました。100年以上に亘り時代の変化を受け入れ、様々な用途で使用されてきた喜多町弁天長屋の風情をそのままに、絶妙な修理・改修具合で、明るく開放的な印象を与える事に成功しています。資金調達を始め、企画・運営に至るまで自立した取り組みの中で行われており、活動としても大きく評価されるものです。

所有者:松本智恵・松本一郎  
企画・改修:NPO法人川越蔵の会

かわごえ都市景観表彰は、歴史と伝統が薫る川越の景観に調和し、今後の都市景観を形成していくうえで、その先駆又は象徴と考えられる建築物等に対して表彰するものです。平成2年から数年おきで開催され、今回で16回目を迎えました。

これまでの川越を形づくってきた風景や自然に対して、どういった景観要素が加えられ、新たな風景を生みだしていくのか。歴史ある町並みに積極的に調和し、新たな都市構築の中でシンボルあるいはリーダーとなり、ときには斬新な試みや提案があらわれます。年々変わりゆく都市にあって、今後の川越らしさを積み重ねていくモデルとなる素材を顕彰することにより、まちづくりの糧にしたいと思います。

### ぞうき にわ た いしぼ だ いえ 雑木の庭に建つ石場建ての家

神明町

#### 住宅都市川越から発信するサステナブルな試み



住宅地の一角に、川越の原風景を思わせる雑木に囲まれた気候風土適応型の木造住宅が新築されました。伝統的な石場建て工法を用いた建物は、土壁を用いることで断熱性や調湿性にも優れた性能と快適性を持ち合わせています。自然浸透工法を採用した、舗装せず土を残したオープンな庭づくりは、四季折々の表情をご近所にも提供してくれます。建物が主役でありつつも、景観形成における植栽の有効性を示すお手本のような事例であると言えるでしょう。建て主の環境への意識の高さと伝統的な構法を継承していこうという作り手の熱意が受け取れる建物です。

建築主:宮嶋和夫・宮嶋美代子  
設計:有限会社綾部工務店一級建築士事務所  
施工:有限会社綾部工務店

### きむらけ ますや 木村家(柵屋)

松江町1丁目21-13

#### 甦る立門前の風情



立門前の往時の記憶を伝える隣り合う2棟の歴史的建築物が見事に磨き上げられました。母屋は、商業都市川越の発展を支えてきた町家建築で、これまで大きなパラペット看板で覆われていた大屋根や下屋の再現にあたって漆喰でアクセントをつけるなど、単なる修理にとどまらないこだわりが光ります。貸店舗として北・西面を人造石洗い出し仕上げに改築されていた袖蔵は、エキゾチックなデザインを活かした修理によって宿泊施設として生まれ変わり、通りに賑わいをもたらしています。時間をかけ、じっくりと仕上げられた2棟からは、建て主の思いに込める職人の心意気が伝わってきます。

建築主:木村(蔵)の宿 柵屋  
設計:守山登建築研究所  
施工:黒木工務店

### ユー プ レ イ ス U PLACE

脇田本町8-1

#### 役目を果たす豊かな動線



川越駅西口に、都市機能を集約した新しいランドマークが創造されました。駅直結の複合施設は、賑わいの創出だけでなく、川越駅からウエスタ川越までの動線を誘う中継地点として、エリア全体の魅力向上に貢献しています。難しい敷地の形状をうまく生かした建物配置は見事で、通りへの圧迫感を軽減しつつ、近代的なデザインにバランス良く配された植栽とアウトモールの採用により、歩くことが楽しくなる空間の演出に成功しています。

建築主:株式会社ピーアンドディコンサルティング  
設計:梓設計・九段建築研究所設計共同体  
施工:前田・岩堀・平岩建設工事共同企業体

#### 川越市都市景観審議会景観表彰審査部会委員

- 石井 成人/川越商工会議所 建設業部会長
- 神山 藍 /東洋大学理工学部都市環境デザイン学科 准教授
- 糸原 恒久/公益社団法人小江戸川越観光協会 会長
- 倉田 直道/工学院大学 名誉教授(審査部会長)
- 篠崎 幸恵/東京家政大学家政学部造形表現学科 講師
- 西澤 堅 /川越ロータリークラブ 公共イメージ委員会委員長 (国際ロータリー第2570地区)
- 日色 真帆/東洋大学理工学部建築学科 教授
- 藤村 龍至/東京藝術大学建築科 准教授

※敬称略、50音順

#### 現地審査の様子



選考委員が応募作品を直接見て回り、表彰する作品についての審査を行いました。開催日:令和3年11月15日(月)

#### 景観表彰審査部会委員総評

今回は、令和になって最初のかわごえ都市景観表彰であり、市制施行100周年記念として位置づけられた行事にふさわしく、ジャンルに富んだ作品の応募がございました。新たな表彰対象として活動や行為が加わったこともあり、審査の過程においても、作品のデザイン性に対する評価にとどまらない、発信力や周辺への影響力等を含んだ活発な議論が行われました。

表彰作品を見てみますと、商業の発展や町文化を支えてきた歴史的建築物の再生・利活用、満を持して実現した駐車場や遊休地等の有効活用、環境に配慮した原風景への回帰など、100年の歩みを基盤としつつ次の100年に向けた提案とチャレンジする姿勢が感じられるものとなっています。

惜しくも選定を逃した作品においても、ドミトリーホテルや駅舎、オフィスビル等の新たな用途の導入によって、通りや境界の賑わい創出に寄与する建物のほか、文化財建築物の活用や学生による地域のまち歩きマップの作成など、活動的な面で高い評価を得たものも多くありました。個別に応募された川越氷川神社一帯の作品群は、加えるのではなく引き算による景観形成への取り組みが新しく、継続的かつ組織的な景観整備が実施されていることから、別の視点での評価もできるのではないかと感じました。

今後は、景観形成においても、新しい生活様式への対応を求められることが予想されますが、都市の成熟度合は着実に進んでいることから、これまでになかった発想を取り入れた「まちづかい」に長けた計画の提案がされることを期待いたします。